



第14号 2020年6月発行

SC経営士会 業務・広報グループ  
（一社）日本ショッピングセンター協会 SC経営士会事務局

## 藤木SC経営士会会長 就任

5月27日（水）に、（一社）日本ショッピングセンター協会の第48回定期総会及び2020年度第2回理事会が開催され、大甕会長のご後任として、藤木光広氏（イオンモール㈱ 常務取締役 リーシング本部長）<第6期SC経営士>が、SC経営士会の次期会長として、清野協会長より任命されました。新たに就任された藤木会長、そして退任された大甕前会長よりご挨拶を頂いておりますので、掲載させていただきます。

## 大甕 前会長からのご挨拶

2018年に新生SC経営士会（現在のSC経営士会）が誕生してから、早いものでおよそ2年の月日が過ぎました。

当時を振り返りますと、旧SC経営士会は2013年の組織改編以来5年経過しており、600名超のSC経営士はメンバーの多様化が進み、またSCを取り巻く環境は現在のコロナ禍ほどではないが大きく変化していた時期でした。そうしたなかSC業界では、SC経営士の専門的知見の活用が望まれる課題が増えており、私はSC経営士会を変える必要性を強く感じていました。

そこで、SC経営士委員会やSC経営士会幹部らと、約1年間かけてSC経営士会の果たすべき役割とその存在意義について再考し、新たな活動方針を策定するとともに内部組織を拡充する案を取りまとめ、理事会の承認を得ました。併せて委員会組織再編を受けて、SC経営士委員会の小委員会の位置づけにあったSC経営士会は、他委員会と同じく企画会議に直結した組織として位置づけられました。これにより冒頭に述べたとおり2018年5月、新生SC経営士会が誕生しました。

新生SC経営士会は、従来からの活動であるSC経営士相互の研鑽と交流だけでなく、SC業界が抱える課題解決に向けた研究、また委員会のサポート活動等に加え、専門的な見地から広範にわたりSC業界の発展、協会活動の支援を行うことで協会のシンクタンクの機能を担う、という大きな目的を掲げました。そのためにSC経営士会副会長らとともに内部組織の改編を行いました。

1つ目として幹事会を拡充しました。具体的には従来の会長1名・幹事3名から、会長1名・幹事10人以上とし、人的パワーを増強するとともに活動の意思決定を行う機関としての役割を明確にしました。

2つ目は専門グループの設置です。SC業界の課題解決に向けて協会活動のサポート等を行う「研鑽・研究グループ」、及び広報活動等を行う「業務・広報グループ」を設置し、研究と発信の強化を図りました。3つ目は全国7つのブロックの活動拡充で、従来のブロック長1名等の構成から、ブロック長及び副ブロック長、運営委員という体制にして、活動のさらなる活発化を図ったのです。

おかげさまで新たなスタートを切ってから約2年が経ち、幹事会、グループ、ブロックのメンバーだけでなく、多くのSC経営士の方々のお力添えを得て、活動のさらなる活発化に手ごたえを感じています。それは毎年1月に全国のSC経営士が集う年次ゼネラルミーティング（AGM）で発表している年間活動計画で一目瞭然です。スケジュール表にところ狭しと展開されるグループやブロックの活動計画は、AGMで説明するのに苦勞するほどで、その中身に若干触れると、各ブロックは地域ならではの工夫を凝らした活動を強めています。研鑽・研究グループでは昨年度、「未来のSCのために今取り組むべきこと」をテーマにしたSC経営士研究論文を募集して発表しました。また、業務・広報グループで企画して発信している「SC経営士会【THE CIRCLE】」は号を重ねるごとに内容が充実し、2年間で第14号を数えるまでになりました。人材育成委員会との連携も定着し、SC経営士登録更新講習や冠講座について協力して企画、実施しています。

おしまいに、前号の【THE CIRCLE】で述べたことにつながりますが、コロナ禍は人々の働き方、ライフスタイル、買物や食事の仕方などを大きく変えています。その従来の延長線上にない新しい暮らし向きに、SCは在り方を問われているといえます。いま我々SC経営士は人一倍の知恵を絞り、努力を積み重ねることで、SCの将来を築いていかなければなりません。どうかそれくらいの気概を持って取り組んでほしいと思います。

その将来に向けて、SC経営士会はこの度、藤木光広新会長に舵取りを委ねます。藤木光広氏（第6期SC経営士）はSCの経験がたいへん豊富で、幾多の困難を乗り越えてこられました。素晴らしい方にバトンを渡すことができたと思っています。皆様にはぜひとも藤木新会長を盛り立てていただきたいと思っています。

これからのSC経営士会のさらなる発展、SC経営士のよりいっそうの活躍を心より祈っています。

大甕 聡



# 藤木 新会長からのご挨拶

このたび、大甕前会長の後を受け、SC経営士会の会長を務めることになりました。

いまショッピングセンターは厳しい時代に進んでおります。そのような中において、さらに新型コロナウイルスという未曾有の危機的状況が発生し、国内をはじめ世界的にも消費に大きな影響を与えております。このような厳しい状況でSC経営士会の会長という大役を務める機会を頂戴したことは、本当に身の引き締まる思いです。まずは、これから1年間、皆さまのご協力、ご支援を得て職責を果たしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

本来であれば、就任に当たっての抱負を申し上げるところですが、この場をお借りして大甕前会長に一言御礼を申し上げます。

大甕前会長が着任されたのは東日本大震災直後と伺い、それ以降も在任中におかれは、大規模な自然災害が相次ぎ、甚大な被害が生じるとともに、インフラ面の脆弱性が浮き彫りになった時期でもありました。また、海外では米中貿易摩擦の深刻化や、中国経済の減速など、世界経済をめぐる不確実性が一段と高まった状態であり、時代も平成から令和に新時代へと移行し、前例のない出来事が乱発し、相当ご苦勞があったものと思ひます。

このような難局を乗り越え、リーダーシップを発揮されSC経営士会という大きな組織を動かしてこられました。そして今、このSC経営士会を一つの完成形として築き上げていただいたことに、心から感謝の気持ちを表するとともに、厚く御礼申し上げます。

さて、私もSC経営士の一人として、現在の社会的環境変化がショッピングセンターに与える影響はますます大きくなるものと感じており、SC経営士の存在意義も大きく問われます。Withコロナ、Afterコロナにおける消費者の心理変化、行動変容を捉えた上での「新しい生活様式」への適応、今後も発生するであろう想定外の自然災害への対処等、ショッピングセンターを取り巻く環境は急速に変わります。我々はそれらの環境変化に迅速に対応すると共に、ショッピングセンターは益々「リアルな価値」を発揮し、社会のインフラとして役に立たなければなりません。よって、私としてはSC経営士の皆様にはSC経営士会の存在意義である、SC協会のシンクタンクの機能を担うことを前提とし、「厳しい時代に今だからできること」「SC経営士になって良かったと感じること」「SCの更なる繁栄の一翼を担うことの喜びを感じること」を全SC経営士が感じ取って行動を起こして頂ければと思っています。

以上三つのポイントを申し上げましたが、これらの活動を通して企業の枠を超えてSC経営士一人ひとりの交流を活発にする場所を提供することが会としての大きな役目であると思ひます。専門情報の交流の場はもちろんのこと、世代を超えて専門を超えて交流できる機会を増やしたいと考えます。ひとりでも多くのSC経営士がSC経営士会員であることに意味を見出していただくことを期待しています。

さて、私事ですが、私のSC経営士の登録番号は「89番」です。SC経営士になったのは、1997年であったと認識しています。記憶では、SC経営士会創設の際、当時弊社の役員の一人在SC協会内で経営士を検討されているメンバーの一人で、ショッピングセンターの将来や当時の知見を会社の枠を超えていろいろ議論されたのを傍目で見えております。私としては、その時のSC経営士資格を造られた時の思いを受け止め、会長として会を盛り上げ、創設メンバーに恥じることはないように運営をできればと思ひます。

また、折角このような機会を与えて頂きましたので、増えてきた若手経営士の方とも積極的に交流する機会を持ち、次の時代に向けて若手育成に励みたいと思ひます。そのためにも、皆様の積極的な会への参加と、ご意見を出来るだけ頂き、皆様のご意見を私どもが真摯に受け止めていきたいと思ひます。

最後になりましたが、役員の方々、各委員会、各支部、各所で活躍された会員の皆様に心から敬意を表し、各SC経営士の方々にも引き続いて今期もご支援賜りますようお願いして就任のあいさつに代えさせていただきます。

藤木 光広



- ◆所属先・部署・役職に変更がありましたらお知らせください。
- ◆「SC経営士ニュース」に対するご意見・ご感想は、こちらに願ひます。

SC経営士会 業務広報グループ 田部井(17期) [ktabei@gms.tokyo-dome.co.jp](mailto:ktabei@gms.tokyo-dome.co.jp)  
SC協会 SC経営士会事務局 [sckeiishikai@jcs.or.jp](mailto:sckeiishikai@jcs.or.jp)

